

〔原文〕

分別四治，夫帝王之(一)士失(二)仕大(三)臣皆當老(四)少子本非理(五)世人也。吾(六)見天氣，問者比連不調，或過在仕臣失實，令(七)使時氣不調，人君不明，災害並行，道人亦傷。令天地三光，尚爲其病，故無正明，道士於自逃(八)獨得不傷，故吾雖獨蒙天私久存(九)常不敢自保。初少(一〇)已(一)以(二)來(三)事師問事，無能悉解之(四)。天師解決其要意(五)恐無復得知之(六)。

夫治者有四法，有天理，有地理，有人理，三氣極，然後(一)行萬物理也。願聞其意。天理者，其臣老，君乃父事其臣也(二)夫臣卑，何故師父事之哉(三)但位卑，道德尊重(四)師父事之者，乃師其道德，當以(五)合策而平天下也。地理者，友事其臣，若以同志同心者(六)〔地者〕陰順(七)母子同列同胞(八)同憂，臣雖位卑，其德和平君之治(九)人治者，卑其用，臣少小小，象父生子，子少小，未能爲父作策，故亂小矣(一〇)。

〔校勘〕『太平經』卷五十三 分別四治法第七十九

- (一) 夫帝王之士失臣皆當老…經作「夫帝王之仕大臣皆當老」。
- (二) 理：經作「治」、後文「理」皆作「治」。
- (三) 吾上有「何爲問此哉」五字。
- (四) 令：經作「今」。
- (五) 道士於自逃：令：經作「道士於何自逃」
- (六) 故吾雖獨蒙天私久存：經作「故吾雖得獨蒙天私久存」
- (七) 初少已來：經作「初少以來」
- (八) 無能悉解之：經作「無能悉解之者」。
- (九) 天師解決其要意：經作「今不冒慚，重問於天師，解決其要意」。
- (一〇) 恐無復得知之：經作「恐遂無復以得知之也」。
- (一一) 蚊：經作「跂」、後文「蚊」皆作「跂」。
- (一二) 君乃父事其臣也：經作「君乃父事其臣，師事其臣也」。
- (一三) 夫臣卑，何故師父事之哉：經作「夫臣迺卑，何故師父事之乎哉」。
- (一四) 但位卑，道德尊重：經作「但其位者卑下，道德者尊重」。
- (一五) 以：經作「與其」。
- (一六) 若以同志同心者：經作「若與其同志同心也」。
- (一七) 陰順：經作「地者陰順」。
- (一八) 同胞：經作「同苞」
- (一九) 其德和平君之治：經作「其德而和，和平其君之治」。
- (二〇) 象父生子，子少小，未能爲父作策，故亂小矣：經作「象父生其子，子少，未能爲父

作策也，故其治小亂矣。」。

*敦煌本S四二二六所載之目錄作「太平部 第四（丁部十七卷）・太平經卷第五十三分別四治 第八十」

〔訓読〕

分別四治、夫れ帝王之大臣に仕えるは皆 當に老たるべし、少子は本 世人を理むるにあらざるなり。吾は天氣を見るに、間者（しばらく）、比連して調はず、或いは過ち仕臣の實を失ふに在り、時氣をして調はず、人君をして明ならず、災害をして並びに行ひ、道人を亦た傷つけしむ。天地三光をして、尚は其病を爲し、故に正明なく、道士に於いて自ら逃がれ、独り傷つかざるを得、故に吾獨り天の私を蒙りて久しく存すると雖も、常に敢へて自ら保たず。初少以來、師に事へて事を問い、能く悉く之を解するなし。天師其の要意を解決するも、恐らく復た之を知るを得ること無からん。

夫れ治とは四法あり、天理あり、地理あり、人理あり、三氣 極まれば、然る後 岐行萬物理なり。願はくは其の意を聞かん。天理とは、其の臣 老なれば、君は乃ち其の臣に父事す。夫れ臣は卑しければ、何の故に師父として之に事ふるや。但し、位卑しきも、道德尊重なれば、師父として之に事ふるは、乃ち其の道德を師とし、當に以て合策して天下を平らぐべきなり。地理とは、友として其の臣に事ふること、すなわち以て志を同じく心を同じくする者の若し。地とは陰順なり、母子列を同じくし、胞を同じくし、憂ひを同じくし、臣位卑しと雖も、其の徳 君の治を平和す。人治とは、其の用を卑しとし、父が子を生子、臣の少小を小し、未だ父の爲に策を作る能はざるに象り、故に亂小なり。

〔現代語訳〕

分別四治、そもそも帝王は大臣に仕えるのは皆が年配者であるべきで、若者がもともと世人を治めるのではない。私は天氣を見て、最近、連続で不調であり、もしかしたら過ちが仕臣が事實を失った点にあり、時氣が不調で、人君が不明で、災難が連続して起こり、道人もまた傷つけるようにさせる。天地三光すらそのために損われ、それだから正明がなくなり、道士が逃げて独り傷つかないことができた。だから私だけが天に恵まれて長く生きられることができても、いつも自分で守ることをしなかった。小さい頃から、師に仕えて事を尋ね、全て解決するのができなかった。天師はその要意を解決したが、またそれを知ることができないであろう。

そもそも治めるには四法があり、天理があり、地理があり、人理があり、そして三氣が極まれば、その後で岐行萬物理である。その意味を聞きたい。天理とは、その臣が老であれば、君はそれで彼に父として仕える。そもそも臣の身分が低いのに、何故君が師父として彼に仕えるのか。但し、彼の地位は低いのが、道德は貴いので、師父として彼に仕えるのは、すなわちその道德を師とするのであって、それで策を合わせて天下を平定するべきものである。地理とは、友としてその臣に仕え、志を同じくし心を同じくする。地は陰順であり、母

子が列を同じくし、胞を同じくし、憂いを同じくし、臣の身分が低いといっても、その道徳が君の治を和らげる。人治とは、その作用を低くみなし、臣の若さを小さくする。子供が生まれたがまだ小さく、まだ父の爲に計策を作るのができないように、それだから、小さい混乱が生じる。

〔注釈〕

○ 時氣不調

『太平經』卷一百一十六 某訣第二百四「時氣者、即天地之所響、所興爲也。」「時氣者、正天之時氣也。」

○ 道人

『太平經鈔』壬部「上古第一神人、第二真人、第三仙人、第四道人、皆象天得真道意。」

『太平經』卷七十一 致善除邪令人受道戒文第一百八「六人生各自有命、一爲神人、二爲真人、三爲仙人、四爲道人、五爲聖人、六爲賢人、此皆助天治也。神人主天、真人主地、仙人主風雨、道人主教化吉凶、聖人主治百姓、賢人輔助聖人、理萬民錄也、給助六合之不足也。」

○ 三光

『莊子』雜篇「上法圓天以順三光、下法方地以順四時、中和民意以安四鄉。」

『太平經』卷一百九十 不忘誠長得福訣第一百九十「天以三明明日月星、下照中和及地下、無有懈怠。」

○ 正明

『太平經』卷四十三 大小諫正法第五十九「三光小諫小事星變色、大諫三光失度無明、諫而不從、因而消亡矣。」

○ 三氣

『太平經鈔』乙部 名爲神訣書「太陰、太陽、中和三氣共爲理、更相感動、人爲樞機、故當深知之。」

○ 蚊行

『太平經』卷三十六 三急吉凶法第四十五

「真人前、蚊行之屬有幾何大急？幾何小急？幾何不急乎？」「跂行俱受天地陰陽統而生」

○ 父事

『禮記』曲禮上 「年長以倍則父事之、十年以長則兄事之、五年以長則肩隨之。群居五人、則長者必異席。」

『太平經』卷五十三 分別四治法第七十九「父事之者、乃若子取教於嚴父也、乃若弟子受教於明師也、當得其心中密策祕言聖文、以平天下、以謝先祖、宗廟以享食之、其德以報天重功、故能得天下之心、陰陽調和、災害斷絕也。」

○ 臣卑

『太平經』卷九十六 守一入室知神戒第一百五十二「以尊卑仕臣、各得其處也。」

○ 師事、友事

『戰國策』燕策 「郭隈先生對曰、帝者與師處，王者與友處，霸者與臣處，亡國與役處。」
○ 地者陰

『太平經』卷一百二 位次傳文閉絕即病訣第一百六十六「地者，陰也，常受施，西北爲極陰也。」

○ 母子

『太平經』卷四十八 三合相通訣第六十五 「故君爲父，象天；臣爲母，象地；民爲子，象和。」

〔原文〕

夫治天下者，視天下之臣，皆師父也^(一)。故父愛其子^(二)，何有危時。師^(三)父皆能爲其子解
八方之患難，何有失時^(四)。象地理者，天下之臣，皆君之友也^(五)。夫同志合策爲文，同憂患，
欲共安其位。地者，順而承上，悉承天意^(六)，皆得天心，何有不安時乎。象人理者，得中和之
氣。和者，可進可退難知。

象子少，未能爲父計也，欺其父也。臣少，未能爲君深計，故欺其君^(七)。少者，生日月少，
爲^(八)學又淺，未有可畏，故欺也，故治〈少〉〈小〉亂矣^(九)。象歧行理者，無〈理〉〈禮〉義^(一〇)，
萬物者少知，無有道德。夫歧行萬物^(一一)，無有上下，取勝而已，故亂敗矣^(一二)。象天
理者，〈人〉〈仁〉^(一三)，好生不傷。地^(一四)理者，順善而成小傷。象人理者，相利多欲，數相賊
傷，相欺殆^(一五)。象歧行理者^(一六)，終無成功，無有上下^(一七)，取勝而已。

〔校勘〕『太平經』卷五十三 分別四治法第七十九

- (一) 夫治天下者，視天下之臣，皆師父也：經作「象天治者，天下之臣，盡國君之師父也」。
- (二) 故父愛其子：經作「故父事之，人愛其子」。
- (三) 師上有「夫」一字。
- (四) 何有失時：經作「何有失時也」。
- (五) 皆君之友也：經作「皆國君之友也」。
- (六) 悉承天意：經作「悉承天志意」。
- (七) 故欺其君：經作「故欺其君也」。
- (八) 爲：經作「人」。
- (九) 故治少亂矣：經作「故其治小亂矣」。
- (一〇) 象歧行理者，無理義：經作「象歧行萬物治者，歧行者無禮義」。
- (一一) 夫歧行萬物：經作「夫歧行萬物之性」。
- (一二) 故亂敗矣：經作「故使亂敗矣」。
- (一三) 人：經作「仁」。
- (一四) 地上有「象」一字。
- (一五) 殆：經作「怠」。
- (一六) 象歧行理者：經作「象歧行萬物而治者」。
- (一七) 上下：經作「大小」。

〔訓読〕

夫れ天下を治むる者、天下の臣を視れば、皆 師父たるなり。故に父 其の子を愛するに、
何ぞ危時あらんや。師父 皆 能くその子の為に八方の患難を解き、何ぞ失時あらんや。地
理に象るとは、天下の臣、皆 君の友なり。夫れ志を同じくし合策して交わりを爲し、憂患
を同じくし、共に其の位を安んぜんと欲す。地とは、順いて上を承け、悉く天意を承け、皆
天心を得れば、何ぞ不安の時あらんや。人理に象るとは、中和の氣を得。和とは進むべく退

けるべきことを知り難し。

子少（わか）く、未だ父のため計らざるなり、その父を欺くに象る。臣 少く、未だ君のため深く計らる能わず、故にその君を欺く。少者、生れし日月が少（すく）く、学を為す 又 淺し、未だ畏るるべしが有らず、故に欺くなり、故に治めて小亂なり。蚊行理に象るとは、禮義なく、萬物とは知少なく、道德有る無し。夫れ蚊行萬物とは、上下有る無く、勝を取るのみ、故に亂敗するなり。天理に象るとは、仁 生を好み、傷つけず。地理とは、善に順ひて小傷をなす。人理に象るとは、相利多欲、數々相 賊傷し、相 欺殆す。蚊行理に象るとは、終わりに成功無く、上下有る無く、勝を取るのみ。

〔現代語訳〕

そもそも天下を治める者は、天下の臣をすべて師父と見なす。もともと父はその子を愛するのに、どうして危ない時があるだろうか。師父はみなその子の為に様々な困難を解決し、どうして時機を失うことがあるだろうか。地理をまねるのは、天下の臣がすべて君の友である。そもそも志を同じくし、策を合わせて付き合ひ、憂いを同じくし、共にその位を定めようと望んでいる。地は上の意向に従ひ、全て天意を受け、みな天心を手に入れたならば、どうして不安の時があるだろうか。人理をまねるのは、中和の氣を手に入れる。和とは、進んでよいのか、退けてよいのかを知り難い。

子が若く、まだ父の爲に推し量らなく、父を騙すようである。臣が若く、まだ君の爲に深く推し量らないため、君を騙す。若者は、年が低く、学問も淺く、まだ恐れるものがない。それだから君を騙し、その統治に小亂がある。蚊行理をまねるのは、禮義がない。萬物は知識が少なくて道德もない。そもそも蚊行萬物は、上下関係がなく、ただ勝ち取るのみであり、それだから亂敗になる。天理をまねるのは、仁であり、生を好み、傷つかない。地理は、善に従ひ、小さい傷になる。人理をまねるのは、お互いに役に立ち、欲が多く、よくお互いに傷つけ、お互いに騙す。蚊行理をまねるのは、結局成功できなく、上下もなく、勝ち取るのみである。

〔注釈〕

○ 失時

『論語』陽貨「好從事而亟失時，可謂知乎。」

○ 悉承天意

『墨子』天志上「順天意者，兼相愛，交相利，必有賞。」

○ 中和之氣

『太平經』卷四十八 三合相通訣第六十五「天氣悅下，地氣悅上，二氣相通，而爲中和之氣，相受共養萬物，無復有害，故曰太平。」

○ 和者，可進可退難知

『太平經』卷四十七 服人以道不以威訣第六十四「人以和治，故進退多便其辭，變易無常故

也。」

○ 小亂

『太平經鈔』乙部 以樂卻災法「賢聚致治平，衆文聚則治小亂，五兵聚其治大敗。」

○ 禮義

『孟子』盡心下「無禮義，則上下亂。」

○ 象天理者，仁好生不傷。地理者，順善而成小傷

『論語』里仁「唯仁者能好人，能惡人。」

『太平經鈔』乙部 闕題「欲仁好生，象天道也；臣欲柔而順好養，法地道也，即善應出矣。」

○ 相利

『墨子』兼愛中「子墨子言曰…以兼相愛交相利之法易之。」

○ 賊傷

『墨子』號令「詐為自賊傷以辟事者，族之。」

『論衡』物勢「火不爍金，金不成器，故諸物相賊相利。」

〔付錄〕

『太平經合校』太平經卷五十三分別四治法第七十九

真人純稽首戰慄，「吾今欲有所復問，非道事也。見明師言，事無不解訣者，故乃敢冒慚復前，有可可疑一事，何等？」「平行，吾即爲子說矣。」〈起〉「夫帝王之仕大臣皆當老，少子本非治世人也。」「何爲問此哉？吾見天氣，問者比連不調。或過在仕臣失實，令使時氣不調，人君不明，災害竝行，道人亦傷。今天地三光，尚爲其病，故無正明，道士於何自逃，獨得不傷。故吾雖得獨蒙天私久存，常不敢自保。」「初少以來，事師問事，無能悉解之者。今不冒慚，重問於天師，解訣其要意，恐遂無復以得知之也。」〈止〉「恩唯明師既加，不得已爲弟子說其所不及。」「善哉！子之言也。今且見子之言，吾知太平之治已到矣。然，吾且悉言之，子隨而詳記之。」〈起〉「夫治者有四法：有天治，有地治，有人治，三氣極，然後踐行萬物治也。願聞其意。」「天治者，其臣老，君乃父事其臣，師事其臣也；夫臣迺卑，何故師父事之乎哉？但其位者卑下，道德者尊重，師父事之者，乃事其道德，當與其合策而平天下也。地治者，友事其臣，若與其同志同心也；地者陰順，母子同列，同苞同憂，臣雖位卑，其德而和，和平其君之治。人治者卑其用，臣少小小，象父生其子，子少未能爲父作策也，故其治小亂矣。」〈止〉

踐行萬物竝治者，視其臣子若狗，若草木，不知復詳擇臣而仕之，但遇官壹仕，名爲象人無知也，何故乎哉？象人者，財象人形，苟中而已，不爲君計也，故善爭之也。」〈起〉「象天治者，天下之臣，盡國君之師父也，故父事之，人愛其子，何有危時？夫師父皆能爲其子解八方之患難，何有失時也。象地治者，天下之臣，皆國君之友也。夫同志合策爲交，同憂患，欲共安其位；地者，順而承上，悉承天志意，皆得天心，何有不安時乎？象人治者，得中和之氣，和者可進可退難知，象子少，未能爲父計也，欺其父也。臣少，未能爲君深計，故欺其君也。少者，生用日月少，人學又淺，未有可畏，故欺也，故其治小亂矣。象踐行萬物治者，踐行者無禮義，萬物者少知，無有道德。夫踐行萬物之性，無有上下，取勝而已，故使亂敗矣。象天治者，仁

好生不傷。象地治者，順善而成小傷。象人治者，相利多欲，數相賊傷，相欺忘。象跂行萬物而治者，終無成功，無有大小，取勝而已。〈止〉